

第2学年 国語科学習指導案

人権教育研究室

1. 単元名 友だちに分かるように話そう「あったらいいな，こんなもの」

2. 単元について

(1) 児童の現状(児童観)

本学級の児童は，大人数の前で話すことには強い苦手意識をもっている児童が多いが，1対1の場面で話すことは好きである。年度初めより，人前で話すことに慣れさせるために，帰りの会で一日の振り返りを発表する場を設けているが，恥ずかしさや緊張のために1文で発表する児童が多い。自分の答えや考えを発表する場面では，ノートやプリントには記入しているものの，自分の答えや考えに自信が持てないために，進んで発表する子は限られている。しかし，話す内容を順序立てて発表できる児童も増えてきている。

聴き方については，学級活動「うれしい話のききかた」の学習から，聴き方の基本的な構え(していることをやめる 話し手に体を向ける 話し手の顔を見る 手遊びをしない うなずく 返事をする 最後まで話を聞く)を学び，日常生活でも実践しようとする姿が見られるようになってきている。

(2) 教材の内容(教材観)

本学級の児童は，「とも子さんはどこかな」の教材で，大事なことをおとさずに聞いたり，話したりすることを学習してきた。本教材は，自分が考えた道具を他者に伝える活動を通して，自分の考えを順序立ててまとめたり，相手を意識した話し方・聴き方について考えたり練習したりすることができる教材である。また，自分の考えた道具を発表し合ったり，質問し合ったりする活動を通して，話題に沿ってやりとりすることで内容が充実することの意味を学ばせることもできる教材である。本教材は，導入段階で児童になじみ深いアニメキャラクターを登場させ，児童の学習への興味や関心を高めやすくする工夫がされており，自由で楽しい雰囲気の中で，「話すこと・聞くこと」の基本的な姿勢に焦点を当てた学習を進めることができる。この学習は，話題からそれず，進んで考えを出し合うことをねらった三学期の「何に見えるかな」の学習につながっていく。

さらに，相手にわかりやすく伝えようとする姿勢や話し方のスキル，友達の発表を傾聴する姿勢，友達の発想の素晴らしい点やアイデアへの賛同点を見つけながら聞く力等，児童の人権感覚の育成につなげることができる教材である。

(3) 視点(指導観)

本単元の指導に当たっては，まず「あったらいいな，こんなもの発表会」を開くまでの見通しをもたせた後に，「あったらいいな」と思う道具を考える活動に取り組む。今回は，友達の家族に対する思いに触れさせることをねらい，「家族にとってあったらいいな」という視点で道具を考えさせていく。児童が多くの道具を発想しやすいように事前に家族へのインタビュー活動を組み入れる。

次に，発表カードを作る活動に取り組む。まず，思うままに発想した道具が誰にとってあったらいい道具なのか，そう思った理由，道具の具体的な形・色・大きさなどを個人で考えていく。個人活動の後，道具へのイメージをさらに深めるために，二人組で質問し合い，答え合うペア活動に取り組む。次に，道具の絵を描いてイメージをはっきりさせた後に，聞き手にわかりやすい

ように話す順序を考えて発表原稿をまとめ、発表カードの大枠を完成させる。ここで、発表カードの内容をより充実させるために、再度、ペアで発表カードを聞き合い、質問し合う活動を通して、発表原稿の付け加えを行い、発表カードを完成させる。

次に、発表の練習に取り組む。発表練習に取り組む前に、相手に聞こえる声の大きさや速さなど相手を意識した話し方について学ぶ。そして、お互いに、良い点や改善点を言い合いながら、ペアで発表練習を進めていく。

最後に、学級で「あったらいいな、こんなもの発表会」を開く。発表会は、友達の発想やアイデアへの賛同点、発表の仕方の良いところ等を見つけながら発表を聞かせていく。そして、みつけたいいところをカードに記入し、そのカードを贈り合う活動を通して、自分や友達のがんばりを認め合い、学習のまとめをする。

本単元の学習では、自己肯定感・他者肯定感を深めるために家族に目を向け、家族のための道具を考える活動や、友達の家族への思いを知る活動を大切にしたい。また、友達との関わりの中で自分の考えを深めたり、互いに質問し合い答え合ったりする中で考えを共有していく活動や自分や友達のがんばりを相互に認め合う活動も大切にしたい。

3. 単元の目標

あったらいいなと思うものについて楽しく空想し、友達と質疑応答することで詳しくなることを知る。

自分が考えたものについて、話し方に気をつけて発表し、みんなに知らせる。

この単元で身につけさせたい力

話す順序を考えながら話すことができる力

ペアの人と話し合って、考えを深めることができる力

話し手の発表を聞いて、感想を言ったり、質問したりすることができる力

人権教育の視点（育てたい力・態度）

相手にわかりやすく伝えようとする姿勢と話し方のスキル

友達の発表を傾聴し、友達の発想や家族への思いを共感的にとらえる態度

友達の発想の素晴らしい点やアイデアへの賛同点を見つけながら聞く力

自分や友達のがんばりやよいところを認め合うことができる力

4. 単元計画（全16時間）

時	目標	主な学習活動と内容	おもな支援
1	新出漢字の読み、筆順、使い方を知り、練習をすることができる。	1. 学習のめあてを確認する。 新出かん字のれんしゅうをしよう 2. 新出漢字の読み方、筆順、使い方を確認する。 3. 書き込み練習をする。	声を出し、手を使って確かめさせる。 丁寧に書くように声かけする。
2	発表会までの見通しを持つことができる。	1. ペアで読んでスキルをする。 2. 全文を音読する。 3. 学習のめあてを確認する。 あったらいいなこんなものはっぴょう会までの見通しをもとう	

		4. 「あったらいいなこんなもの発表会」をするまでの流れを知る。	おうちの人に生活の中で困っていることを聞いてくるように声かけする。
3	学習内容に興味を持ち、あったらいいなと思うものをたくさん考えることができる。	1. ペアで読んでスキルをする。 2. 全文を音読する。 3. 学習のめあてを確認する。 あったらいいなと思うものを考えてノートに書こう 4. あったらいいなと思うものを考えて、ノートに書く。	思いっただけノートに書かせる。
4	前時で考えた「あったらいいなと思うもの」の形・大きさ、できることを具体的に考えることができる。	1. ペアで読んでスキルをする。 2. 全文を音読する。 3. 学習のめあてを確認する。 あったらいいなと思うものの形や大きさ、できることを考えて、プリントにまとめよう 4. 前時に考えたものについて、形や大きさ・使い方などを具体的に考えてメモしていく。	道具のイメージを深めやすいように、形や大きさなどの考える視点を指定する。
5	ペアで質問し合って、発表する道具のイメージを深めることができる。	1. ペアで読んでスキルをする。 2. 学習のめあてを確認する。 となりの人としつもんし合って、はっぴょうするどうぐのことをもっとくわしく考えよう 3. 64ページを音読して、話し合いの目的を確認する。 4. 前時までで考えた中から、友達に知らせたい道具の一つを選ぶ。 6. 発表する道具について、ペアで質問し合う。 7. 発表する道具についてのイメージを深める。	道具のイメージを深めていくために友達と質問し合うことを確認する。 質問のポイントを提示する。
6	発表カードの絵を描くことができる。	1. ペアで読んでスキルをする。 2. 学習のめあてを確認する。 はっぴょうカードの絵をかこう 3. 発表する道具の絵を描く。	大きく描くように声かけする。
7 8	発表カードの文章を話す順序を考えて書くことができる。	1. ペアで読んでスキルをする。 2. 学習のめあてを確認する。 話すじゅんじょを考えて、はっぴょう原こうを書こう 3. 教科書66ページを読み、発表原稿の構成を知る。	三つのまとまりを意識して書くことを押さえる。

		<p>4. 前時までのワークシートを見ながら、話す内容を考える。</p> <p>5. 話す順序を考えながら、文章にまとめる。</p>	
9 (本時)	ペアで質問し合い、発表カードに付け加えをすることができる。	<p>1. ペアで読んでスキルをする。</p> <p>2. 学習のめあてを確認する。</p> <p>二人組でしつもんし合って、はっぴょうカードにつけくわえをしよう</p> <p>3. 67ページを読み、発表の聞き方を知る。</p> <p>4. 自分が考えた道具についてペアで発表したり質問したりする。</p> <p>5. 付け加える内容を決め、短冊カードにまとめる。</p>	教科書67ページを参考に、質問の視点を確認する。
10	聞く人に分かりやすい発表を考えて、ペアで練習することができる。	<p>1. ペアで読んでスキルをする。</p> <p>2. 発表カードを完成させる。</p> <p>3. 学習のめあてを確認する。</p> <p>聞く人に分かりやすいはっぴょうのしかたを考えて、れんしゅうしよう</p> <p>4. 67ページを読み、発表の仕方を知る。</p> <p>5. ペアで発表の練習をする。</p>	教師がよい話し方・悪い話し方をモデリングする。 アドバイスの視点を与える。
11	発表が上手になるように、ペアで練習することができる。	<p>1. ペアで読んでスキルをする。</p> <p>2. 学習のめあてを確認する。</p> <p>二人組でれんしゅうをして、はっぴょうが上手になるようにかんそうを言い合おう</p> <p>3. 前時とは違うペアで、発表の練習をし、アドバイスし合う。</p>	アドバイスの視点を与える。
12 13	聞く人を意識して、発表することができる。 友達の発表のよいところをみつけて聞くことができる。	<p>1. ペアで読んでスキルをする。</p> <p>2. 学習のめあてを確認する。</p> <p>「あつたらいいなこんなものはっぴょう会」をしよう</p> <p>3. 67ページを読んで、話し方・聞き方のルールを確認する。</p> <p>4. 発表会をする。</p>	いいところを見つけながら聞くように声かけをする。
14	「よかったよカード」を書くことができる。	<p>1. ペアで読んでスキルをする。</p> <p>2. 学習のめあてを確認する。</p> <p>「よかったよカード」を書こう</p> <p>3. よかったところカードを書く。</p>	発表会のメモを見ながらカードを書くように声かけする。

15	「よかったよカード」を贈り合い、発表会のまとめをすることができる。	1. ペアで読んでスキルをする。 2. 学習のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">学習のまとめをしよう</div> 3. 「よかったよカード」を贈り合う。 4. 学習のまとめを書き、交流する。	感想を交流させる。
16	テスト	1. ペアで読んでスキルをする。 2. 学習のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">文しょうをよく読んで、もんだいに答えよう</div>	

5. 本時の目標（ 国語科の目標， 人権教育の視点での目標 ）

自分が考えた道具について、どんなものを聞き手にわかるように、声の大きさと話す速さに気をつけて話すことができる。

話し手が発表することについて、どんなものを聞き漏らさないように聞くことができる。

ペアになって、発表カードに付け加えができるように、ペアになって質問し合うことができる。

6. 本時指導の考え方

児童は前時までに個人活動で発表カードを作成してきた。本時は、発表カードの内容を充実させるために、ペアで質問し合い、答え合う活動を通して、発表カードに付け加えをする場面である。

まず本時学習のめあてを全体で確認する。その後、5時目の学習を想起させ、ペアで質問し合い、答え合う活動へのイメージを持たせる。次に、教科書67ページを読み、話し方と聞き方、質問の視点を確認する。これらはいつでも児童が確認できるように黒板に掲示しておく。本時では、質問し合う活動に重点を置くために、話し方については簡単に触れる程度にする。ペア活動に入る前に、質問されたことは忘れないようにノートにメモをしておくように声かけをする。メモをとる時間も考慮し、ペア活動の時間をできるだけ保障する。どちらが先に発表するかを決めさせ、ペア活動に入る。発表者と質問者の役割を交代する前に、質問の着眼点の良かったペアを紹介し、質問の視点を再度、確認する。ペア活動の後、付け加える内容を短冊カードに書く。付け加える内容が思い浮かばないときはペアで相談して良いことを伝える。

最後に、本時のまとめと次時の活動を確認し、話す・聞く活動に関する振り返りをさせる。ペア活動の良さを書いている児童がいたときは感想を発表させるか教師が紹介する。

【板書図】

聞き方

あい手をむき合って
「うれしい話のきまかた」で聞く

はつびょうを聞いて
わからないところを聞く
もっと知りたいことを聞く

話し方

あい手とむき合って
あい手に聞こえる声の大きさで話す。
ゆっくりと話す。
さいごまではっきりと話す。

あつたらいいな こんなもの
二人組でしつもんし合って、はつびょうカードにつけくわえをしよう

7. 本時の展開

主な学習活動と内容	主な支援 (検証軸児童への働きかけ)	評価の視点
<p>1. ペアで「読んでスキル」をする。</p> <p>2. 学習のめあてを確認する。 学習のめあて _____ となりの人としつもんし合って、はっぴょうカードにつけくわえをしよう</p>	<p>そばについて、正確に読めているか確かめる。</p> <p>学習のめあてが理解できていないときは個別に説明する。</p>	<p>漢字を正確に読むことができる。 ペアの人の読みが正しいか聞き取ることができる。</p>
<p>3. 67ページを読み、発表の聴き方を知る。</p> <p>4. 自分が考えた道具についてペアで質問し合い、答え合う。 (1)お隣さんと</p> <p>5. つけ加える文章を短冊カードに書く。</p> <p>6. 本時のまとめをし、次時のめあてを確認する。</p>	<p>教室掲示に目を向けさせ、「うれしい話のきき方」の学習を思い出させる。感想を言ったり、質問したりすることも聴き方のスキルであることに触れる。</p> <p>教科書67ページを参考に、質問の視点を確認する。 質問し合う様子がイメージしやすいように、教師がモデリングする。 話し方のスキルについては、簡単におさえる程度にする。 質問内容はノートにメモをして発表カードを完成させるときにつけ加えるように声かけする。 ペアを交代する前に、質問の着眼点などについてよい例を知らせる。 内容に対する感想が言えないときは、話し方に対する感想でもよいことを伝える。</p> <p>つけ加える文章がまとまらないは、つけ加えたいことを聞き取って、一緒にまとめる。</p> <p>カードを使って、話す・聞く活動に関する振り返りをさせる。</p>	<p>発表の聴き方について理解することができる。</p> <p>自分が考えた道具について発表することができる。 ペアの人の発表を聞き、内容に合った質問をすることができる。</p> <p>付け加える内容を決め、文章にまとめることができる。</p>